



HOSHIZAKI

社会・環境報告書

2020

Social and
Environmental Report

ホシザキ株式会社

●本報告書に関するお問い合わせは、下記担当部署までお願いいたします。

発行：ホシザキ株式会社
担当部署：総務部総務課環境係
所在地：〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3番の16
TEL：0562-96-1130
FAX：0562-97-5104
URL：<https://www.hoshizaki.co.jp/>



社会に貢献できる 「進化する企業」を目指して。

CONTENTS

編集方針	1
ホシザキグループの経営理念と社会・環境活動	2
トップメッセージ	3
コンプライアンス、内部統制のさらなる強化による再発防止策について	4
ガバナンス報告	5
特集 事業を通じた社会課題の解決	7
ステークホルダー・エンゲージメント	9
社会報告1 投資家との関わり	10
社会報告2 お客様との関わり	11
社会報告3 地域社会との関わり	13
社会報告4 社員との関わり	15
環境報告1 地球温暖化の防止	17
環境報告2 廃棄物の発生抑制	18
環境報告3 環境マネジメントシステム推進組織体制、マテリアルフロー、環境目標と実績	19
ホシザキグループの概要	21

編 集 方 針／本報告書は、ホシザキ株式会社における社会・環境活動の年次報告書として、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの推進を図ることを目的に発行しています。

参考ガイドライン／環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

対 象 範 囲／ホシザキ株式会社と一部グループ会社の取り組みを対象としています。ただし、環境報告のデータは、ホシザキ単体のデータです。

対 象 期 間／2019年1月1日～2019年12月31日

ホシザキグループの経営理念

私たちは健全な企業経営をおこなう真のグローバル企業へ成長するため、以下の経営理念を掲げています。

存在意義

私たちホシザキグループは、多様化する「食」に対するニーズの変化に対応し、お客様のみならず社会に貢献できる「進化する企業」であることを目指します。これを満たすため、独自の技術に基づくオリジナル製品を創造し、より快適でより効率的な食環境へ向けての新たな提案と迅速かつ高品質なサービスを提供します。

遵法はもとより
社会と社員から
信頼される会社づくり

経営姿勢
良い製品は
良い環境から
透明性のある経営
議論のできる
経営の実践

事業活動と
環境との調和
働きやすい
職場環境の実現

仲良く楽しく
自らの責務を全うし
仲良く楽しく
仕事ができるよう実現しよう

行動規範
顧客満足の
創出
極限への挑戦
現状を打破し失敗を恐れず
常に新しいものを
創造していく姿勢を
大切にしよう

ホシザキグループの社会・環境活動

経営理念のもと、ホシザキグループの社会・環境活動基本方針、ISO9001品質方針、ISO14001環境方針を掲げ、社会・環境活動に取り組んでいます。

社会・環境活動基本方針

ホシザキグループは、
パートナーの協力を得ながら、
以下の方針に基づいた
社会・環境活動を推進します。

1 安全・安心かつ
豊かな食環境の整備に
尽力します

2 環境性・省エネ性に
優れたモノづくりに
挑戦し続けます

3 地域社会との
対話・交流を推進します

4 法令遵守と
適時適正な情報開示を
推進します

5 野生動植物の
保護繁殖に関する
自然環境保護活動を
応援します

将来の世代への責任を果たし、より良い未来を 築くため、 事業を通して社会や環境に貢献してまいります

本年は、2016年に発効したパリ協定がいよいよ始動する年です。パリ協定では、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をすることが世界共通の長期目標として掲げられており、企業に対してもより一層の地球温暖化対策の取り組みが期待されています。

当社グループでは、製品の省エネルギー化や生産工程におけるエネルギー削減などを通じて、地球温暖化をはじめとする環境問題に、真摯に取り組んでまいりました。

これからも、環境問題への継続的取り組みを企業の社会的責任ととらえ、引き続き積極的に推進してまいります。

また、同時に実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制を構築し、事業活動の礎となる強固な経営基盤を確立することで、環境問題のみならず社会の課題解決に貢献してまいります。

なお、当社グループは、昨年度版より、従来の「環境報告書」を一步前進させ、当社グループのESG(環境・社会・ガバナンス)の取り組みを紹介する「社会・環境報告書」として発行しています。この度の2020年度版では、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションをより一層図るべく、ESGに関する記事をさらに充実させています。

特集では「事業を通じた社会課題の解決」をテーマに、地球温暖化対策や安全・安心な食環境づくりといった社会課題に対する当社グループの取り組みをご紹介しています。具体的には、国内外の環境配慮型製品やHACCP(食品の衛生管理手法)に関するソフト面・ハード面からのお客様のサポートなどを取り上げています。また、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの方法などを紹介しています。

当社グループでは、社会に貢献できる「進化する企業」であることを経営理念に掲げています。将来の世代への責任を果たし、より良い未来を築くため、全社員の力を結束し、事業を通して社会や環境に貢献してまいります。ステークホルダーの皆様には、ぜひ本報告書をご覧いただき、さまざまな観点から忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。



ホシザキ株式会社 代表取締役社長

小林 靖浩

コンプライアンス、内部統制のさらなる強化による再発防止策について

2018年に端を発したグループ会社における不適切な取引および内部統制上の不備に関し、お客様をはじめステークホルダーの皆様には多大なるご心配とご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

本件に関しては、以下の施策を実行し、コンプライアンス、内部統制のさらなる強化による再発防止を図りました。

<再発防止策>

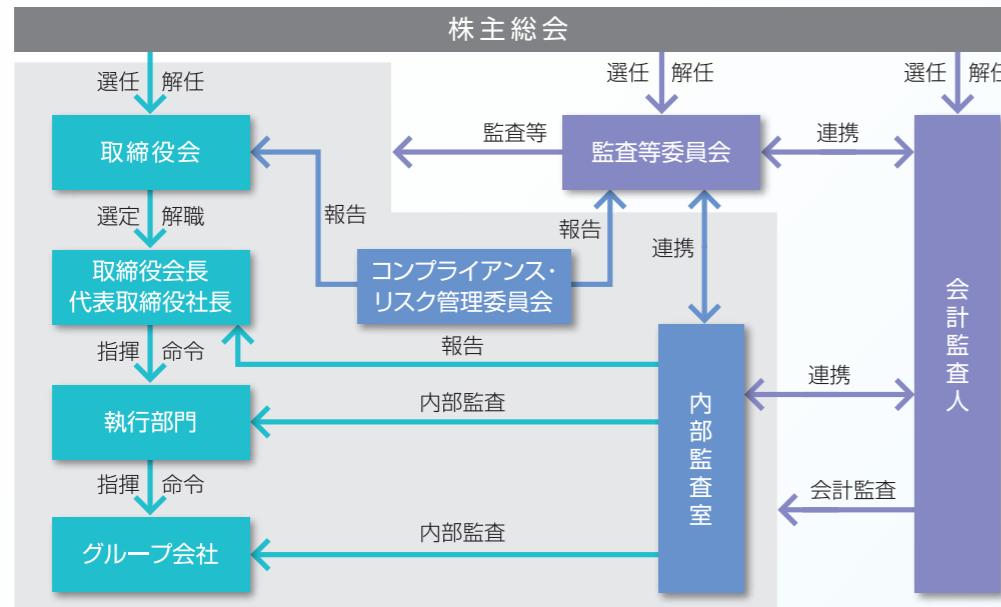
- (1) グループ会社最適ガバナンス方法の確立
- (2) 内部統制項目の追加と将来に向けたIT化
- (3) グループリスク管理機能の確立
- (4) 国内販売会社目標管理制度・人事制度の見直し
- (5) ホシザキとグループ会社のそれぞれの管理機能最適化
- (6) コンプライアンス、内部統制強化に貢献する教育体制の整備

今後とも内部管理体制の強化およびコーポレート・ガバナンスの充実に継続的かつ実効的に取り組んでまいります。

● コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する考え方

ホシザキは、経営の透明性、効率性の向上を図るために、株主様をはじめとするステークホルダーの立場にたって企業収益、価値の最大化を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針およびその目的としています。



コーポレート・ガバナンス体制の概要

取締役会

ホシザキは、2019年11月に取締役会の監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスのさらなる充実を図るために、独立社外取締役の取締役会における割合を3分の1以上とする方針を公表しました。

この方針に従い、2020年3月26日開催の第74期定期株主総会に、独立社外取締役を2名増員する議案を上程しています。

増員する独立社外取締役候補者は、いずれも上場会社の経営者として、経営全般における豊富な経験と高い識見を有しており、取締役会における独立社外取締役の割合(3分の1)のみならず、独立社外取締役の構成面においても、コーポレート・ガバナンス体制の充実につながるものと考えています。

コーポレート・ガバナンスに関する取り組み

ホシザキは東京証券取引所が2015年6月1日に定めた「コーポレートガバナンス・コード」の各原則についての対応をおこなっています。取り組み内容の一部は、

—— コーポレート・ガバナンス報告書 <https://www.hoshizaki.co.jp/ir/management/pdf/governance.pdf> ——

● コンプライアンス

コンプライアンス基本方針

ホシザキグループは、コンプライアンス基本方針を以下の通り定めています。

私たちホシザキグループは

- 1 食環境に関わる企業グループが持つ社会的責任と公共的使命の重みを常に認識し健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からゆるぎない信頼の確立を図っていきます。
- 2 正確な情報(商品情報・企業情報)の積極的かつ公正な開示に努め、広く社会とのコミュニケーションを図り、社会から評価が得られる透明性のある経営に徹していきます。
- 3 法令やルールを厳格に遵守し、社会規範に反することのない誠実かつ公正な企業活動を遂行していきます。
- 4 國際社会に通用する高い倫理観を備えた良き市民として使命感を持ち、内外の経済・社会の発展に貢献していきます。
- 5 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては断固とした姿勢で臨み、けっして妥協はいたしません。

コンプライアンス・リスク管理委員会

ホシザキは、代表取締役社長を委員長とし、取締役および内部監査室室長を委員とした「コンプライアンス・リスク管理委員会」を設置し、コンプライアンス・プログラムの進捗状況を管理し、リスク管理の全体的推進とリスク管理

に必要な情報の共有化を図り、リスクへの迅速な対応とリスク顕在化の回避および軽減策などの決定をおこなっています。

コンプライアンス研修

ホシザキグループでは全社員に対して、年1回、コンプライアンス研修を実施しています。

2019年は、参加型(グループワーク)の研修方式を取り入れたことや、対象者を分類した研修プログラムを企画するなど、受講者のコンプライアンス意識に対して、より深い浸透効果が期待できる方法へ改善しました。その結果、受講後のアンケートでは、「コンプライアンスへの理解度が深まった」との声が多数寄せられ、より効果的な研修を実施することができました。

また、社員が、隨時ホシザキグループで遵守すべきコンプライアンスの基本を確認できるよう、「コンプライアンスハンドブック」を制作しています。このハンドブックは、英語を含めて14か国語に翻訳し、海外グループ会社の全社員へ配布しています。



内部通報制度

ホシザキグループは、役員および社員が、会社において法令違反行為、不正行為およびハラスメント行為などがおこなわれている、もしくはおこなわれようとしている

ことを知った場合の内部通報制度として、内部通報窓口を設置しています。社内の他、社外にも通報窓口を設置しています。

事業を通じた 社会課題の解決

01 地球温暖化への対策

社会課題 温室効果ガスの排出抑制

今日、地球温暖化への対策は全世界をあげて取り組むべき重要な課題と認識され、省エネルギーの徹底や、CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出抑制が強く要請されています。2015年には気候変動に対する世界共通の目標であるパリ協定が採択されています。

ホシザキグループの取り組み

ホシザキグループは、温室効果ガスの排出抑制を自社の事業に直接的に関連する課題として認識し、各国の環境規制を遵守しつつ、製品の省エネ性能の追求やノンフロン化など、積極的に環境配慮型製品の開発に取り組んでいます。あわせて、製造などに関しては、製品に含まれる有害物質削減に取り組み、欧州RoHS指令^(※1)などをはじめとする法規制に適合した製品作りに、真摯に取り組んでいます。

(※1)国際的な環境基準で、特定有害物質(鉛、六価クロム、カドミウム、水銀、ポリ溴化ジフェニルエーテルなど(他5物質))の使用を制限するための欧州連合(EU)の指令

日本 ショーケース

日本では、省エネ法により、フードサービス機器の一部がトップランナーベース^(※1)(以下、基準)の特定機器に指定されています。

ホシザキでは、その基準を超える「エネルギー消費効率の高い製品を開発すること」と、「目標年度^(※2)に先駆けて販売」が実現できるようにとめています。

例えば、ショーケースについては、2019年に省エネ性能を高め、目標年度(2020年度)の基準を大きく達成することはもちろん、目標年度(2020年度)に先駆け開発・販売しています。

(※1)ある時点で、商品化されている製品のうち、最も優れたエネルギー消費効率を基準として、製品事業者にこの基準を超える製品開発を求めるもの。

(※2) (※1)の基準を達成すべき年度で、製品や区分ごとに設定されています。

<代表的な機種>



欧州 製氷機

欧州では、地球温暖化防止を目的に、2022年に代替フロン冷媒を使用する機器の販売が禁止される(Fガス規制)など、ノンフロンへの要請が強まっている中で、ホシザキでは、2009年に業務用では世界初となるノンフロン製氷機(プロパン採用)を開発・販売しました。以降、さらなる改善で、省エネ性能を高め、現在は製品のラインナップの拡充を行っています。

2019年には新たにノンフロンアイスディスペンサーを開発・販売しています。

<代表的な機種>



米州 業務用冷蔵庫

米州では、米国エネルギー省(DOE)、カナダ天然資源省(NRCan)により製品の省エネに関する基準などが厳しく定められています。ホシザキアメリカ(米国の現地法人)では、省エネ性能とお客様の使いやすさを追求した製品の開発販売につとめ、2012年度以降、エナジースター^(※3)アワードを8年連続で受賞しています。

2019年には省エネ性能の向上に加え、ノンフロン(プロパン採用)も実現した業務用冷蔵庫を開発・販売し、さらなる地球温暖化対策に取り組んでいます。

(※3)米国エネルギー省および米国環境保護庁(EPA)が1992年から推進する活動で、機器のエネルギー消費効率を高め、CO₂の排出を抑えることを目的とし、一定のエネルギー消費効率を満たす製品にエナジースターの認証が与えられ、製品にマークを貼付することが認められています。

<代表的な機種>



ホシザキグループでは、お客様のみならず社会に貢献できる「進化する企業」であることを経営理念に掲げています。

この経営理念に基づき、常に事業活動を通じて社会課題の解決に取り組んでまいりました。

本特集では、「地球温暖化への対策」「安全・安心な食環境づくり」に対するホシザキグループの取り組みを紹介します。

02 安全・安心な食環境づくり

社会課題 食の安全の確保

繰り返される集団食中毒や異物混入による製品回収、輸入食品の増加などを背景に、食の安全・安心に対するニーズがますます高まりつつあります。このような中、日本では、2018年6月に食を取り巻く環境の変化や国際化などに対応するため、食品衛生法の改正がおこなわれ、2021年6月には原則全ての食品等事業者にHACCPに沿った衛生管理の実施が求められることとなりました。

ホシザキグループの取り組み

ホシザキグループでは、食品等事業者様のHACCP実践をソフト・ハード両面からトータルにサポート、安全・安心な食環境づくりに貢献しています。

ソフト 専門教育修了者が500名以上! HACCPのお悩みを幅広くサポート

ホシザキグループでは、500名以上がHACCPの専門教育を修了しており、HACCPコーディネーター^(※4)、HACCP普及指導員^(※5)などのアドバイザーも多数在籍しています。

これらの人材を活かし、衛生管理点検、衛生管理マニュアル作成のお手伝いから、機器・器具類の点検、厨房のクリーニングまで、HACCPに沿った衛生管理に必要なサービスを提供しています。

(※4)日本HACCPトレーニングセンターが認定する資格。

(※5)公益社団法人日本食品衛生協会の認定する資格。



●特設ウェブページや冊子においてもHACCPに関して分かりやすく解説しています。

HACCPとは?

安全で衛生的な食品を製造するための管理方法のひとつで、問題のある食品の出荷を未然に防ぐことが可能なシステムです。

アメリカ、EUをはじめ、HACCPを義務化する国が増加しています。

ハード HACCPに沿った衛生管理を実現する厨房機器を展開

ホシザキグループでは、食品事故のリスクを低減させる厨房機器を展開、お客様の効果的かつ効率的なHACCPの実践をサポートしています。

例えば、自動制御でおいしさと確実な加熱を両立するスチームコンベクションオーブン、非加熱野菜や果物を殺菌する電解水生成装置、加熱後、菌の繁殖しやすい危険温度帯(10°C~60°C)をすばやく通過させるプラストチラー、ラピッドチラーなどがあります。

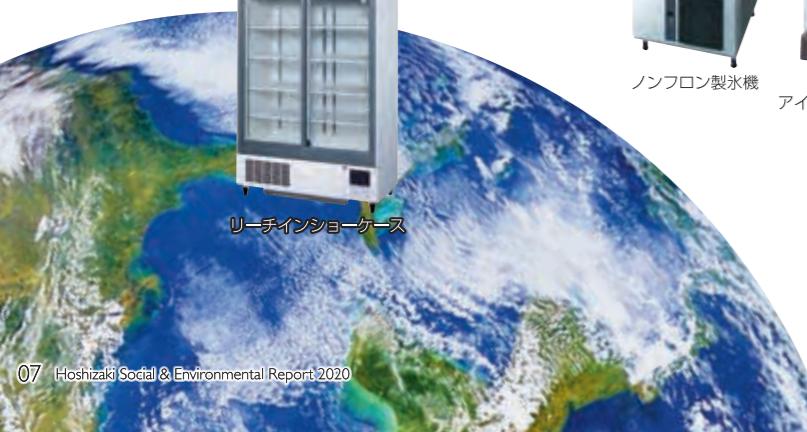


Topics

HACCP対応の講演会を各地で実施

HACCPに沿った衛生管理の制度化を受けて、HACCP関連のセミナー・講習・講演会のニーズが高まっています。

ホシザキグループでは、HACCP普及指導員など、実際に現場指導をおこなっている専門員を中心に、講習・講演会の講師を各地に派遣しています。イベントやセミナーのほか、社会福祉法人、大学や専門学校、自治体からの依頼により講演・講習をおこなっています。



ステークホルダー・エンゲージメント

ホシザキのおもなステークホルダーは、当社グループが製品・サービスを提供しているお客様と、当社グループの事業に直接的に影響を与える株主・投資家の皆様・取引先様・社員、当社グループの事業展開が影響を及ぼす地域社会の皆様です。さまざまな機会を設け、ステークホルダーの皆様のご意見を聞き、経営に活かしています。



投資家との 関わり

投資家の皆様と中長期的な信頼関係を構築するために、業績や財務情報などを正確にお伝えし、積極的なコミュニケーションを推進しています。

IR基本方針および情報開示の方法

ホシザキグループは、株主や投資家の皆様に対して、公平かつタイムリーに投資判断に必要な情報をお知らせするためにIR活動をおこなっています。

ホシザキグループが公表する情報は、TDnet(※)への登録およびホシザキグループのIRサイトでの掲載などの方法によって開示し、公平性につとめるとともに、適時開示規則に

該当しない情報についても、その趣旨に沿って適切な方法による開示をおこなっています。

また、外国人株主比率の増加(2019年12月末時点において30%)を踏まえ、2019年12月期第2四半期より、英文による決算短信・決算説明会資料(要約版)の開示、英語版ウェブサイトの開設を実施しています。

※適時開示情報伝達システム(Timely Disclosure network)

機関投資家・個人投資家とのコミュニケーション

当社業績(実績・予想)および経営戦略について機関投資家の皆様へ代表取締役社長から直接説明する場として、決算説明会を半期ごとに実施しています。加えて経営陣およびIR担当よりテレフォンカンファレンス(四半期ごと)や個別ミーティングを実施し、証券会社主催の各種説明会にも出席しています。

また、機関投資家、アナリストの皆様へ隨時工場見学を実施させていただいており、国内外の投資家の皆様に

対するコミュニケーションの一層の充実に取り組んでいます。

個人投資家の皆様に対しては、より深くホシザキグループを理解いただくために、各証券会社(支店など)にて説明会を実施しています。説明会では取締役会長より会社概要や経営方針、中期展望などを説明させていただいており、都市部だけでなく地方での説明会も積極的に実施しています。



主なIR活動実績

活動	2017年	2018年	2019年
決算説明会	2回	2回	2回
テレフォンカンファレンス	0回	1回	3回
個別ミーティングをおこなった国内機関投資家	147名	106名	80名
個別ミーティングをおこなった海外機関投資家	184名	112名	113名
国内証券会社主催カンファレンス出席	2回	2回	1回
個人投資家向け説明会	3回	4回	3回

株主還元の基本方針

ホシザキは業績に裏付けられた利益還元を積極的におこなう姿勢をより明確にするために、2019年12月期より株主還元基本方針を変更いたしました。新たな基本方針は右記の通りです。

- 配当金については、連結配当性向35%を目標とし、おむね30%から40%程度の間で継続的かつ安定的な配当の維持につとめる。
- 成長投資とのバランスや当社株式の市場価格などを考慮した上で、機動的な自己株式取得についても検討する。

お客様との 関わり

お客様のご期待と信頼に応える製品やサービスを提供するため、品質保証やサービス・サポート体制を構築し、お客様の声にも耳を傾け、日々改善の取り組みを推進しています。

品質保証体制

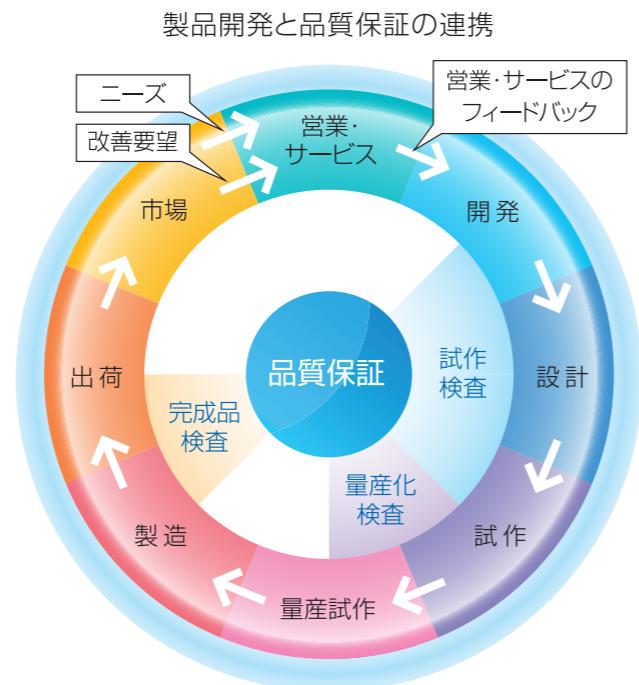
ホシザキは、品質方針においてお客様に安心を提供する姿勢を明確にし、品質レベルの維持、改善に取り組んでいます。

品質の国際規格であるISO9001を全工場で取得しており、品質マネジメントシステムに基づき、製品開発段階から工場での製造、出荷に至る全てのプロセスで厳重な品質チェックをおこなう仕組みを構築しています。

製品の開発段階では、過酷な使用環境を想定した各種試験を繰り返しおこない、これらの試験に合格した技術や部品のみを採用し、製品化しています。

工場の生産ラインでは、まず各工程で作業者一人一人が品質チェックをおこないます。そして完成した製品には、資格認定を受けた検査員が一台一台細かなチェックをおこない、完成品検査（最終検査）に合格した製品のみが、市場に出荷される仕組みになっています。

また、市場からのクレームに対しては、その原因を徹底的に追及し、次の製品開発や製品改良に反映させています。

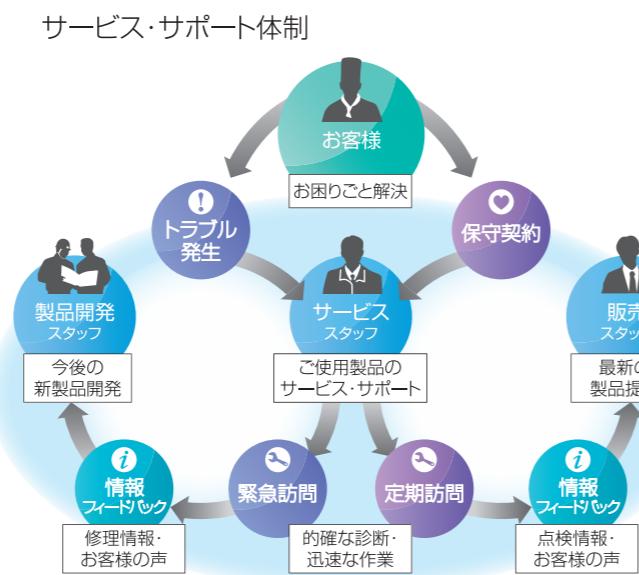


サービス・サポート体制

ホシザキグループでは、お客様にとって最も重要な機能として、サービス・サポート体制に力を入れています。サービスにあたるのは全国各地に展開する15の販売会社、436カ所の営業所です(2019年12月末現在)。

この体制により、万が一のトラブル発生時、直ちにサービススタッフが訪問し、対処しています。そして多くのお客様にご加入いただいているメンテナンス契約の定期訪問を通じて、お客様へのきめ細やかなサポートを実現しています。

また、サービススタッフの訪問の際に頂戴するお客様の声は、販売や製品開発スタッフへ適時フィードバックし、最新の製品提案や今後の新製品開発へ反映させ、お客様のお困りごとの解決につとめています。



災害発生時のお客様の支援

ホシザキグループでは、災害発生時にはグループの力を結集し、お客様の店舗の復旧を支援いたします。以下では2019年9月、10月に発生した台風被害に対する取り組みをご紹介します。

● 台風15号被害に対する復旧支援

9月9日、台風15号が関東地方を直撃し、千葉県を中心に60万世帯を超える大規模な停電や断水が発生しました。

千葉県の製品販売・保守サービスを担当するホシザキ関東では、まず社員やその家族の安否を確認するとともに、お客様の被害状況やライフラインの状況確認につとめました。停電のため、修理コールをいたずらことが難しい地域については、お客様の店舗を訪問し、復旧へのお手伝いにつとめました。

さらに他グループ会社のサービススタッフ（ホシザキ北関東、ホシザキ東京、ホシザキ湘南など、首都圏グループ各社から計11名）の応援を得て、お客様の復旧支援に対応

できる体制を整え、最もお客様からの修理コールが多かった電力供給復旧直後（台風通過の一週間後）に迅速に対応することができました。



製品の復旧作業

● 台風19号被害に対する復旧支援

10月12日から13日にかけて台風19号が東海、関東甲信越、東北地方を直撃し、阿武隈川や阿賀野川の支流など複数の河川が決壊、大きな浸水被害をもたらしました。

被害が大きかった宮城県、福島県を担当するホシザキ東北においても、台風15号同様に社員やその家族の安否確認、お客様の被害状況の把握などにつとめました。また、他グループ会社のサービススタッフ（ホシザキ東海、

ホシザキ阪神、ホシザキからの応援計5名）とともにお客様の対応チームを作り、主に浸水被害を受けた製品の内外装の洗浄、電子制御部品交換などを行いました。

お客様からは、「ホシザキが一番早く来てくれた」「大勢で助けに来てくれて頼もしかった」などのお声をいただきました。



製品の洗浄作業

● ホシザキチャリティクラブによる寄付

ホシザキチャリティクラブ（※）より、今回、台風被害を受けた8県に対して、義援金を寄付しました。

※ホシザキ国内グループ社員・役員の有志で構成される組織。詳細はP13を参照ください。

自治体
宮城県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、神奈川県、長野県

地域社会との 関わり

工場見学・職場体験の受け入れ

ホシザキでは、地域の学校の工場見学や職場体験を受け入れています。2019年は15校の工場見学や4校の職場体験を受け入れました。

工場見学や職場体験を通じて、製品を作る工程や社員の働く姿を見ていただき、そこから「モノの大切さ」「働くことの大変さ」を感じていただくことで、学校教育への貢献ができればと考えています。



小学校の工場見学受け入れの様子

ホシザキチャリティクラブを通じた寄付活動

ホシザキチャリティクラブでは、会員の給与および賞与の100円未満を拠出し、社会福祉や自然環境保護、災害復興などの支援団体に寄付しています。現在、国内グループ会社の社員の70%以上が会員となっています。

2019年は、台風被害を受けた自治体、首里城火災復旧



支援金寄付先の自然環境保護団体「天草海部」の活動風景

復興に取り組む沖縄県に義援金を、自然環境保護団体など16団体に支援金を寄付しました。

支援金の寄付先「天草海部」からのお礼状の紹介

この度は、支援金の寄付ありがとうございました。

天草海部は、熊本県天草市で、海の環境や資源の保護、海で働く次世代育成のために、地域の子どもたちが海を研究するためのプラットフォーム作りを行っています。

例年、海や産業、先端技術に関する勉強会などを開催しており、今年度は、支援金を活用し、「水産養殖いかだ×IoT」を実施しました。水温などを測定するIoTセンサーを作りし、実際に水産養殖現場で測定したり、水中ドローンでいかだ内の様子を撮影するなど、子どもたちに天草の海の魅力を知る機会を提供することができました。

障がい者の自立支援活動の支援

地域の障がい者の自立支援活動をおこなうNPO法人や民間団体を支援しています。

一例として、ホシザキの本社工場では、以前より、地元豊明市に所在する障がい者就労継続支援事業所「むぎの花」の手作りパンの出張販売を毎週1回受け入れています。また、2019年は新たに豊明市社会福祉協議会(※)のキッチンカーの出張販売の受け入れも始めました。地元の食材を使用したキーマカレーやホットドッグなどが温かい

状態で提供され、社員に好評です。今後も、障がい者の社会参加の一助になるよう、協力していきます。

※地域福祉の推進を図ることを目的とする民間の団体。



キッチンカーの出張販売の様子

地域社会の一員として皆様に信頼される存在となるよう、社会貢献活動を推進しています。また、自然環境保護活動の一環として、公益財団法人ホシザキグリーン財団の活動を応援しています。

ホシザキグリーン財団の自然環境保護活動

● ホシザキグリーン財団が管理運営する2つの施設がリニューアル!

ホシザキグリーン財団は、ふるさとの自然を継承したいという創業者の想いから、1990年に設立されました。財団の施設には、「ホシザキ野生生物研究所」、「ふるさと尺の内公園」、「宍道湖グリーンパーク」があり、また指定管理者と

して島根県立の施設である「宍道湖自然館ゴビウス」の管理運営もしています。

2019年には、このうち2つの施設が、より自然に親しむことができる施設としてリニューアルしました。

宍道湖自然館ゴビウス

宍道湖を冠する水族館ならではの
シラウオ水槽新設



シラウオは、宍道湖を代表する魚介類のひとつで、地域の人々に親しまれている魚です。宍道湖自然館ゴビウスでは、2001年の開館以来、飼育が難しいとされるシラウオの周年展示を目指して、人工繁殖に挑戦してきました。2016年からはホシザキグリーン財団の事業のひとつとして量産技術開発に取り組み、現在では、3千尾以上のシラウオを育てるようになりました。

さらに今回、年間を通してシラウオを見ることができる世界唯一の水槽を新しく作りました。2020年3月現在、飼育下で誕生させた4世代目を展示しています。

今後もシラウオの展示を通して、宍道湖の自然環境の大変さを伝えています。

宍道湖グリーンパーク

野鳥観察舎が
リニューアルオープン



宍道湖グリーンパークは、ラムサール条約(※)登録湿地である宍道湖の水鳥たちを観察できる野鳥観察舎を備えた多自然型公園です。開園から23年目となる2019年の4月、より充実した自然体験を提供できる施設として、野鳥観察舎をリニューアルオープンしました。

新しい野鳥観察舎では2階が野鳥観察コーナーとなり、旧観察舎と比べて視界が格段に広がりました。備え付けの望遠鏡の数も増え、より快適にバードウォッチングを楽しめるようになりました。

また、展示スペースも広がり、パネル展示だけでなく、参加体験型の展示も充実しました。

今後も野鳥の観察を通じて、来園された多くの方に自然の魅力を伝え続けていきます。

※国際的に重要な湿地を守る条約。

ホシザキの支援活動

ホシザキグリーン財団の施設のひとつに、野鳥、昆虫、草花などと身近に触れ合うことができる「ふるさと尺の内公園」があり、地域の皆様の憩いの場となっています。

今年、ホシザキの島根工場では、隣接するこの自然の魅力あふれる公園で、社員家族の交流イベントを開催しました。財団の取り組みの紹介、園内散策を行い、社員やその家族

へ自然環境保護の大変さ、人と自然との調和の重要性を伝えました。



交流イベントの様子

社員との 関わり

働きやすい職場を目指して

● ホシザキの両立支援制度

ホシザキでは育児や介護のためのさまざまな制度を導入するとともに、取得しやすい環境を整備し、家庭と仕事の両立を積極的に支援しています。

育児休業中の社員には、自宅で利用できるオンライン講座の提供や定期的な面談の実施により、育児休業中ににおける本人のキャリア形成上のブランクを最小限に抑える取り組みをおこなっています。その結果、女性の育児休業

取得率は100%に達し、近年は男性の育児休業取得者も増加しています。また、配偶者の転勤、育児や介護などの理由で退職した社員が、再度当社に戻ることができる再雇用制度の検討を現在進めています。

今後も制度の整備・拡充を図り、社員のワーク・ライフ・バランスをサポートしていきます。

● 女性活躍推進「かがやきプロジェクト」の活動

「男性、女性に関わらず優秀な人材が働きやすく活躍できる会社」を目指し、2010年に「かがやきプロジェクト」が発足しました。

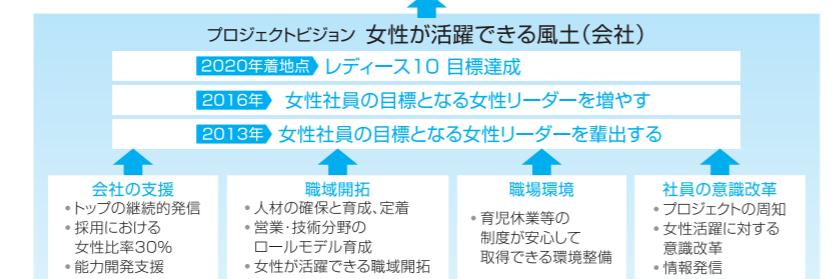
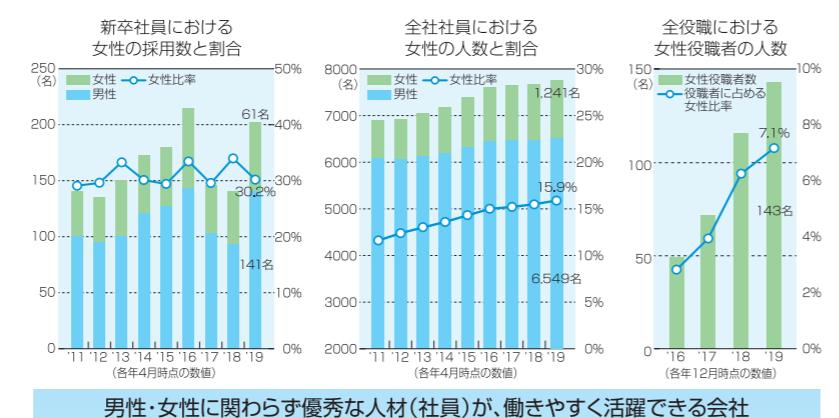
プロジェクトでは係長職以上における女性の割合を10%以上にするという具体的な目標「レディース10」を掲げ、女性のキャリアアップ支援活動を継続的におこなったことにより、2019年12月時点の係長職以上の女性は143名、7.1%となりました。2019年には、近年増加した女性役職者を対象に、マネジメント力のさらなる向上のための研修も実施しました。

プロジェクト発足以降、新卒採用における女性比率は、毎年約3割を達成しています。また、出産や育児のライフイベントを迎えた女性が働き続けられる環境整備により、女性社員比率は年々増加しています。

● 法律に基づく優良企業認定

ホシザキグループでは、「次世代認定マーク(愛称:くるみんマーク)」を18社中17社(うち9社は次世代特例認定マーク(愛称:プラチナくるみんマーク)取得)、「女性活躍推進マーク(愛称:えるぼしマーク)」を18社中2社が優良企業と

全ての人材が個々の能力を最大限発揮し、意欲とやりがいを持って働くことができるよう、人材育成制度の充実などの環境整備を図っています。



して認定を受けています。引き続き、国内グループ全社認定を目指していきます。



● 職場の環境改善

職場の環境改善を図るため、2006年からホシザキグループ全社員を対象に社員満足度調査を毎年実施し、次年度の活動に役立てています。その結果、社員満足度のポイントは着実に上昇しており、社員がより働きやすい職場環境へと改善されています。

● 家族とのつながり

毎年社員の家族を招待する「ファミリーデー」や、地域の方々も参加できる「納涼祭」を開催し、会社への理解を深めてもらう活動をおこなっています。

また、転勤により家族と離れて暮らす社員が、週に1度家族の元へ帰宅できる制度に加え、週明けにその帰宅先から出勤する場合、始業時刻までに出社できない場合でも

また、管理職を対象に、360度評価を実施しています。本人を含め上司や部下など複数の評価を、自己評価と他者評価のギャップとしてフィードバックし、意識および行動改善を促す教育をおこなうことで、マネジメント力とコンプライアンス意識の向上につなげています。



ファミリーデーの様子

通常勤務したものとみなす制度を導入し、週末に家族と過ごす時間が少しでも長くなるように配慮しています。

人材の育成

● グローバル人材の創出

ホシザキグループは、2020年経営ビジョンにおいて「海外売上高比率50%」および「フードサービス機器業界グループ売上高世界No.1」を掲げ、今後より一層加速す

グローバル人材育成プログラム

- | | |
|---|--|
| 語学力強化 <ul style="list-style-type: none"> ・語学研修(初級～上級まで) ・海外グループ会社での短期研修 ・アメリカ語学学校への短期留学 | ビジネススキル強化 <ul style="list-style-type: none"> ・駐在者に必要な幅広いスキル習得の研修 ・国別の留意点・商習慣理解の研修 |
|---|--|

るグローバル化に対応すべく、海外で活躍できる人材の育成を強化しています。



研修の様子

● 次世代経営者育成

ホシザキグループは、グループ各社の成長を力強くけん引できる経営人材育成のため、経営人材に求められる成果を創出する基盤となる思考を強化するための育成プログラム

● サービス研修

ホシザキ研修センターは、グループの強みであるサービス・サポート体制を支える社員の知識と技術向上の場として設立しました。

おもに新卒社員と中途社員向けに新人研修を開催しており、製品知識や技術習得に加え、ホシザキの歴史と自社に対する理解を深め、ホシザキグループの一員としての意識付けをおこなっています。2019年は、新たに入社2年目の

を実施しています。参加者は研修や現経営陣との対話を通じて、経営を実践するための思考回路、戦略構想力と戦略立案力を身につけるとともに能力開発課題を明らかにします。

社員向けに、主力以外の製品に関する研修を開催しました。

当社では、これらの研修をおこない、お客様の信頼を得られる人材を育成しています。



研修の様子

地球温暖化の防止

2019年の全体の結果

ホシザキでは、事業に伴い排出するエネルギー起源のCO₂を削減するため、製造部門、間接部門ともに、省エネ設備の導入、設備の運用改善、業務の効率化などに取り組んできました。あわせて、製品の設計段階での製品軽量化や部品点数削減の取り組みを通じて、輸送時にかかるエネルギーの削減や生産工程の改善による使用電力削減にも積極的に取り組んできました。

その結果、2019年度のCO₂排出量は、12,289tで前年比92.0%となりました。引き続き、省エネ設備の導入や生産工程の改善などを推進し、CO₂排出量の削減につとめてまいります。

デマンド監視装置(※)を活用した省エネ

※最大ピーク電力や電力使用量を常時監視できる装置

ホシザキでは、省エネ設備の導入などに加え、設備の電力を効率的に使用する方法も考えて、環境負荷低減を推進しています。

一例として、本社工場では、デマンド監視装置を活用し、電力の使用状況を見る化することで、使用電力量の削減に結びつけています。デマンド監視装置のデータは、社員誰もが社内イントラネットでタイムリーに見ることができ、省エネ意識の向上に寄与しています。

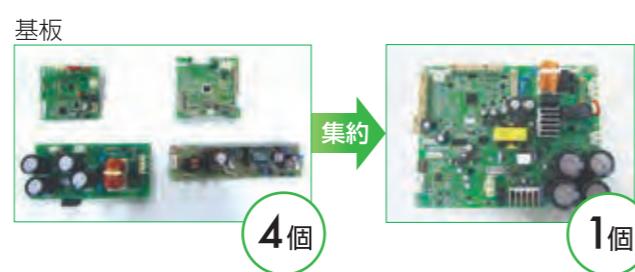
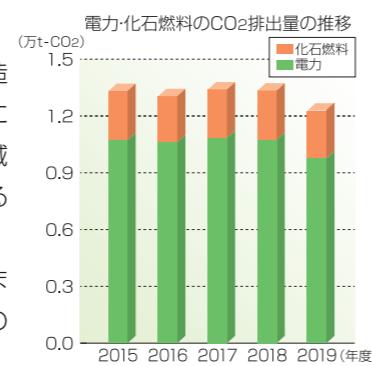
2019年は、従来から取り組んでいる空調の設定温度調整や設備稼働開始時間の分散化などを、この装置の分析データをもとに行った結果、より効率的な運用につながり、前年同月(2018年7月)比で、約10%の使用電力量を削減することができました。

製品の軽量化や部品点数の削減による省エネ

ホシザキでは、製品の軽量化、部品点数削減などを通じて、環境負荷低減を推進しています。

一例として、島根工場において2018年から2019年にかけてモデルチェンジをおこなったテーブル形冷蔵庫(Gタイプ)では、冷凍回路の最適化や断熱性能を向上させ、省エネ性能を高めつつ、製品の軽量化、部品点数の削減を実現しました。

製品の軽量化にあたっては、冷蔵庫本体の強度を確保しつつ、庫内の板金部品の薄肉化や補強材の配置の見直し



廃棄物の発生抑制

2019年の全体の結果

ホシザキでは、金属材料の歩留まり向上や製造工程での不良削減活動、在庫管理の徹底などに積極的に取り組んだ結果、廃棄物排出量は前年度3,527tに対して3,458tで、前年比98.0%となりました。

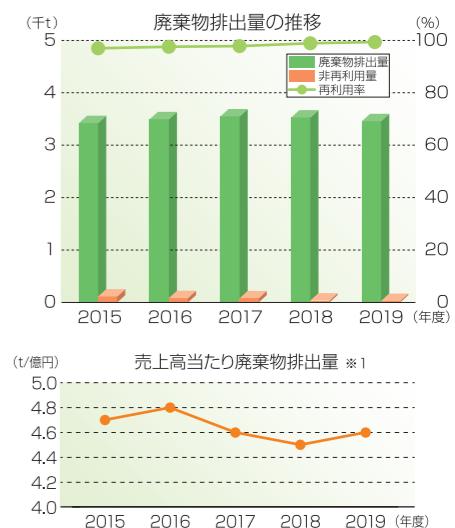
一方で、売上高当たりの廃棄物排出量(指標)(※1)については、今期の売上高減少により、前年度と比べ若干増加しました。

再利用率については、廃棄物の分別、再利用の促進を図ることで、2019年度は前年度達成できなかった各サイトごと(※2)の再利用率99.0%以上を達成することができました。

引き続き、廃棄物の発生抑制を促進するとともに、再利用率の一層の向上につとめてまいります。

(※1) 廃棄物排出量(t)を売上高(億円)で割って算出した数値

(※2) ホシザキの本社工場と島根工場



部品の保管スペース新設による廃棄物の発生抑制

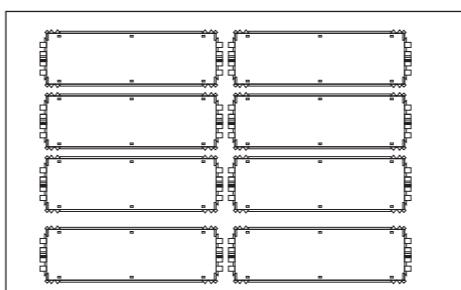
ホシザキの製造工程では、廃棄物の発生を抑制するため、歩留まりの向上(1枚の金属材料から多くの部品取りをする)につとめています。しかし、近年の多品種小ロット化に伴い、部品に余りが発生し、やむを得ず、保管場所などの問題から、一部の部品を廃棄することができました。

そこで、2019年は、従来の歩留まりの向上の取り組みに加えて、部品の廃棄量を減らす取り組みに力を入れました。

一例として、本社工場では、加工現場のレイアウト改善をおこない、部品の保管場所を新設しました。また、部品の廃却基準の見直しもおこないました。結果、部品の廃却点数は前年と比べ、大幅に減少し、年間約8トンの金属材料廃棄物の発生抑制につながりました。

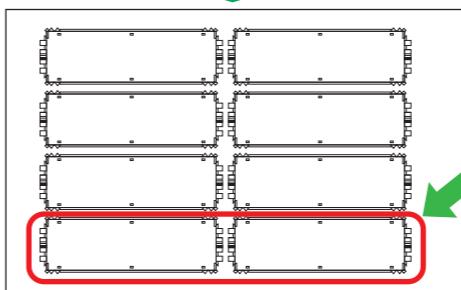
さらに、保管している部品を再使用することで設備で加工する時間も減少し、生産性向上や設備の使用電力削減にも結びつきました。

部品の廃棄量を減らす取り組み【例】



1枚の金属材料から
最大8個の部品が
とれる

生産指示数6個



生産指示の都合上、
2個部品が余る。
この2個を、新設の
部品保管ペースに
保管し、再使用する

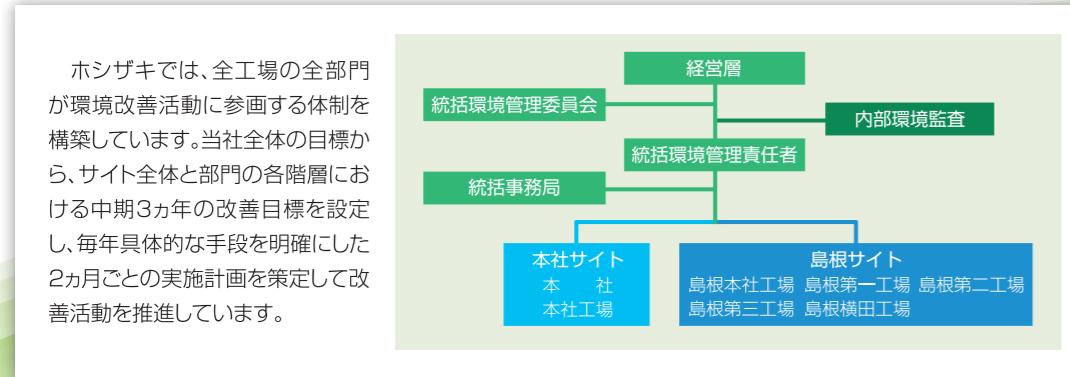


新設した部品保管スペース

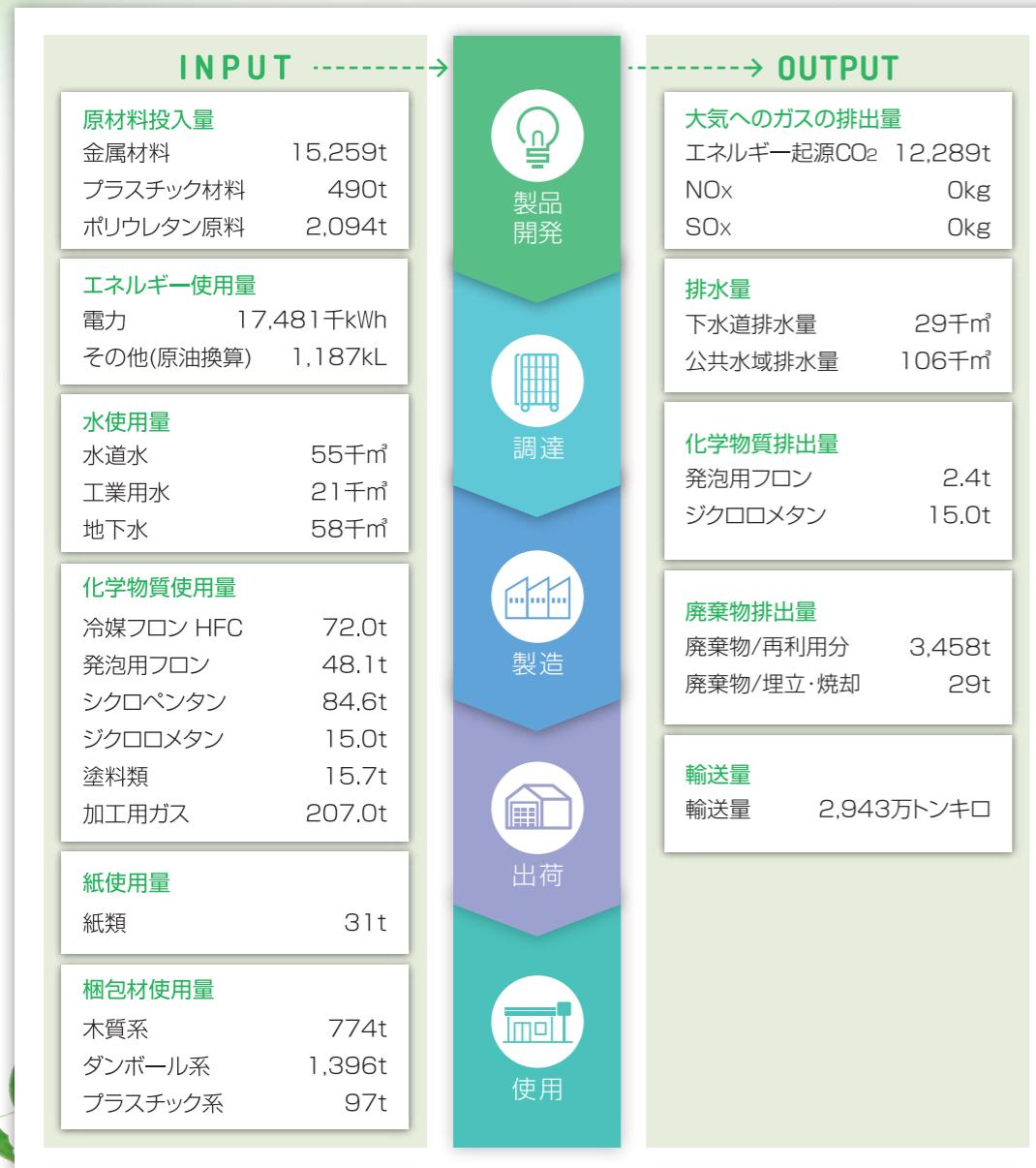
環境マネジメントシステム推進組織体制／マテリアルフロー／環境目標と実績



環境マネジメントシステム推進組織体制



マテリアルフロー



環境目標と実績

2019年度目標	実績	コメント	2020年度目標
省エネルギー			
エネルギー消費原単位 2013年度比 6%低減	○	生産性向上、省エネ設備の導入など、さまざまな活動を積み重ね、目標を達成することができました。	エネルギー消費原単位 2013年度比 7%低減
金属作業屑の歩留まり率 2008年度比4.7～8.0ポイント向上 2013年度比3.0ポイント向上 2016年度比0.013ポイント向上 (部門ごとに目標値を設定)	○	生産向上活動とあわせて各部門で施策を掲げて取り組み、目標を達成することができました。	金属作業屑の発生抑制歩留まり率 部門ごと、工程ごとに目標値を設定
廃棄物の発生抑制			
プラスチック材料作業屑の歩留まり率 2008年度比5.0～14.0ポイント向上 (部門ごとに目標値を設定)	△	製品の仕様変更などによりプラスチックの排出量が増加し、一部の部門で目標未達成になりました。	プラスチック材料作業屑の歩留まり率 部門ごとに目標値を設定
廃製品の発生抑制 部門別、発生工程別、発生原因別に目標値を設定	△	各部門で目標を達成するための施策を掲げて改善を進めてきましたが、一部の部門で材料変更による不具合発生などで目標未達成となりました。	廃製品の発生抑制 部門別、発生工程別、発生原因別に目標値を設定
輸送時の負荷低減			
フロン			
才数(積載率)の向上 2012年度比2.0ポイント向上	○	製品輸送トラックの積載率目標値を掲げて取り組み、目標を達成することができました。	才数(積載率)の向上 2012年度比2.5ポイント向上
発泡用:一部製品で低GWP(※) 発泡剤へ切り替え実施 冷媒用:低GWP(※)冷媒化に向けての研究	○	【発泡用】実施完了しました。 【冷媒用】実施完了しました。	発泡用:一部製品の低GWP(※) 発泡への切り替え実施 冷媒用:低GWP(※)冷媒化に向けての研究
製品開発			
ゼロエミッション (リサイクル率99%以上)			
食器洗浄機、ショーケースのさらなる省エネ化	○	食器洗浄機については、高効率ガスブースターなどを採用し、ショーケースについては、高効率圧縮機などを採用することで、さらなる省エネ化を達成することができました。	トップランナー対応製品のモデルチェンジなどを目標に設定
自然環境の保護			
ゼロエミッションの達成 (各サイトでリサイクル率99.0%以上)	○	本社サイトと島根サイトとともに、リサイクル率99.0%以上を達成することができました。	ゼロエミッションの達成 (各サイトでリサイクル率99.0%以上)
ホシザキグリーン財団のおこなう保護活動への協力と参加	○	ホシザキグリーン財団のおこなう保護活動への協力しました。	ホシザキグリーン財団のおこなう保護活動への協力と参加

※地球温暖化係数(GWP)が低いこと。地球温暖化係数は、CO₂を基準に、温室効果ガスがどのくらい温暖化する能力があるかを表した数字。

「モノづくり」と「サービス」両面から、 安全・安心な食環境の創造に貢献しています。

ホシザキグループは、フードサービス機器の開発・製造と、販売およびメンテナンスなどのサービスの両面から、

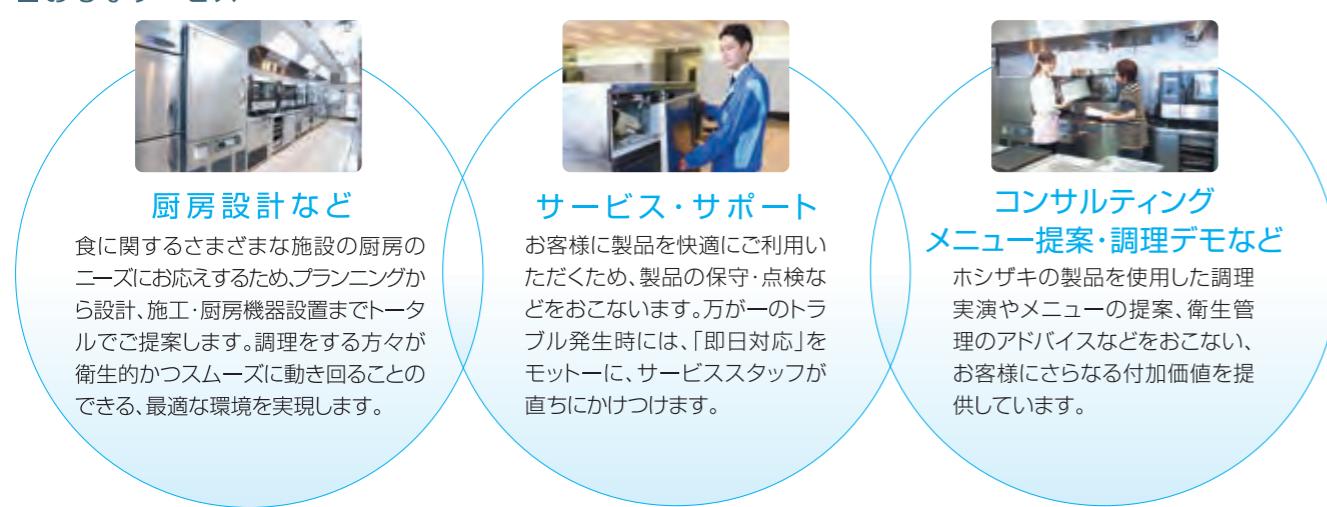
安全・安心な食環境の創造に寄与しています。

また、環境配慮型製品の開発・提供や事業活動での環境負荷の低減、お客様への省エネ・省力化のご提案などを通じて
地球温暖化をはじめとする環境問題に取り組んでいます。

■ 売上高構成比とおもな製品



■ おもなサービス



会社概要

商 号 ホシザキ株式会社

設 立 1947年(昭和22年)2月5日

資 本 金 8,021百万円(2019年12月期)

売 上 高 290,136百万円(2019年12月期、連結)

代 表 者 代表取締役社長 小林靖浩

本店所在地 〒470-1194

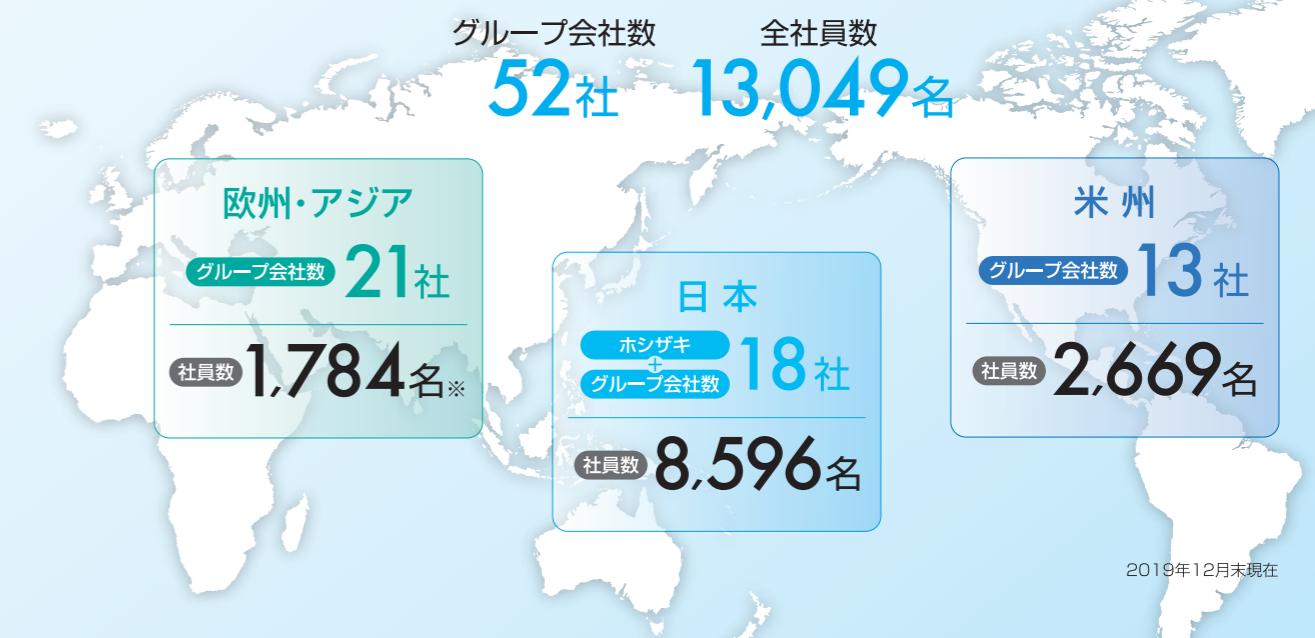
愛知県豊明市栄町南館3番の16

社 員 数 13,049名(2019年12月期、連結)

■ グローバルネットワーク

グローバルネットワークを通じて、米州・欧州・アジアを中心に、各国・各地域への製品供給を積極的に展開しています。

※欧州・アジアのグループ会社数には、Öztiryakiler Madeni Eşya San. ve Ticaret Anonim Şirketi(以下、Özti社)を含んでいますが、社員数については、Özti社は持分適用の非連結会社のため、除いています。



■ 国内ネットワーク

15の国内販売会社体制のもと、全国436カ所(2019年12月末現在)の営業所展開による、きめ細やかな販売・アフターサービスのネットワークを確立しています。

